

第4章 ケーススタディの実施

本章では、ケーススタディの実施を行った。

具体的には、まず実施方針の検討を行った。次に、景観形成の事後評価実施対象事例を、道路・橋梁・街路・河川・海岸・港湾・公園の各分野における景観形成関連のモデル事業等から選定した。さらに、選定した事例ごとに事業特性・景観特性を配慮しつつ、景観形成事後評価手法を検討し、実際に事後評価を実施した。評価の視点としては風景としての調和といった観点だけでなく、周辺への波及効果、市民の利用実態・意識等、客観的に論ずることのできる事項を重点的に検討した。

4. 1 ケーススタディの実施方針検討

ケーススタディの実施にあたっては、以下の3つの段階に沿って各種調査を行うことを検討した。

■段階1) 事前調査

施設周辺の概要や対象事例に関する計画・設計の意図等について、事前に、文献の収集や、計画・設計者へのヒアリングを実施する。ここでは、「景観整備による波及効果を意識して整備した内容・箇所」、及び、効果の具体的内容として「期待する効果」を抽出・整理する。

■段階2) 現地での調査

ここでは、施設の利用者を対象とした調査として、アンケート調査、ヒアリング調査、定点観測調査の3種類を実施する。

アンケート調査では、調査対象を主に施設周辺の住民とし、施設に対する印象評価、整備前後における印象の変化、日常的な利用の内容、整備前後における利用の変化、等についての回答を得る。これと計画・設計意図とを比較することにより、景観整備による波及効果を捉えることができる。なお、観光客の利用が中心と思われる事例については、周辺住民のみを対象とするのではなく、現地での利用者全般とする。

ヒアリング調査では、調査対象を利用団体とし、アンケート調査と同様の項目についてより詳細を聴取する。

定点観測調査では、利用者や施設周辺の建築物・施設等を対象とし、さらなる効果を確認し、また効果が確認された箇所について整理する。

■段階3) 調査結果の整理

以上の調査結果を整理する。

4. 2 景観形成の事後評価実施対象事例選定

4. 2. 1 選定の考え方

調査対象事例（案）の選定の考え方は、以下に示す通り。

- ①土木学会デザイン賞(2001～2007)を受賞した事例全てをリストアップする。
- ②景観整備の効果をより把握しやすい地元に着した整備事例を、アドバイザーの助言を踏まえて追加する。
- ③以上によりリストアップした事例の中から、より多くの整備効果が把握可能と考えられる事例を、調査候補事例として抽出する。

この際、以下に留意する。

- ・直轄事業の参考となる事例を優先する。
- ・整備後経過年数に留意する（「利用者行動に与える効果」の調査対象は、原則として竣工後3年、「施設周辺の景観に与える効果」の調査対象は、原則として竣工後5年以上のものを対象とする）。
- ・対象事例によって特に注目すべき効果については、差別化し詳細に把握する。
- ・事例ごとに得られる効果の質・量が異なることを考慮し、以下のような事例の特性について対象事例相互のバランスに配慮する。

表4-1 事例の特性と基準、効果との関係例

特性	分類	基準	効果との関係
整備種類	①新規整備	新しく構造物が出現したもの、整備前にはなかった機能（利用）が新たに加わったもの	事業による変化の影響が大きいと想定される。そのため、事業による効果と景観整備による効果の整理が必要。
	②改修整備	整備前後で機能（利用）は変わらず、景観整備によるグレードアップを図ったもの	景観整備による変化の影響が想定される。特に、被験者に整備前の記憶が残っている場合は整備前後の比較が容易。
事業の総合性	①総合的整備	同一事業の中で複数の施設整備が計画されているもの	事業による変化の影響が大きいと想定される。そのため、事業による効果と景観整備による効果の整理が必要。
	②単体整備	事業として施設単体の整備に完結しているもの	景観整備による変化の影響が大きいと想定される。
事業規模	①大	総合的事業や事業面積の大きいもの	地域全体の景観形成に影響しやすい。
	②小	単体事業や事業面積の小さいもの	コミュニティの景観形成に影響しやすい。
P Iの実施	①実施	ワークショップや意見交換会など継続的に住民参加を実施したもの	ワークショップ等へ参加したことによる効果が大きいと想定される。
	②実施していない	ワークショップなど住民参加の手法を用いていないもの	景観整備による効果が大きいと想定される。
利用者の属性	①地域住民の利用がある、地域住民以外の利用もある	コミュニティの施設として、かつ観光的な施設としての役割をもつもの	利用者にとっての景観整備の効果の把握が可能。ただし、評価主体によって効果の捉え方が異なる場合があり、主体別の効果の意味の整理が必要。
	②地域住民の利用がある、地域住民以外の利用がない	コミュニティの施設としての役割を持つもの	地域住民にとっての景観整備の効果の把握が可能。
	③地域住民の利用がない、地域住民以外の利用がある	観光的な施設としての役割を持つもの	地域住民以外にとっての景観整備の効果の把握が可能。
	④地域住民の利用がない、地域住民以外の利用もない	周囲に人家等がなく人の利用を前提としていないもの	利用者効果、空間変化の把握は困難。

4. 2. 2 選定された13事例のリスト

上記の選定の考え方に基づき、選定された13事例のリストを表4-2に示す。また、選定時に用いた調査候補地一覧を表4-3に示す。

表4-2 選定案一覧

事業分野・施設		都市・地域整備	公園	河川		海岸	道路	街路・遊歩道	橋梁・高架橋		駅・駅前広場	港湾			
事例名称		山形県金山町まちなみ整備	豊田市児ノ口公園	太田川基町護岸	津和野川河川景観整備	岸公園	指宿海辺の散歩道	福島西道路	壺屋やちむん通り	勝山橋「歩車」	油津堀川運河・木橋（夢見橋）	日向市駅周辺地区整備	門司港レトロ地区環境整備	汽車道	
デザイン賞受賞年度		07	04	03	02	03	—	—	03	06	—	—	01	01	
竣工年		—	95	83	96	99	94	98	98	00	07			97	
所在都道府県		山形	愛知	広島	島根	島根	鹿児島	福島	沖縄	福井	宮崎	宮崎	福岡	徳島	
事業主体		直轄（国）●													
調査の確実性		■													
		▲													
		▲													
整備種類（新：新規整備、改：改修整備）		改	改	改	改	改	改	新	改	改	新	改	新	新	
事業の総合性（複合的整備●）		●				●					●	●	●		
事業規模（大：地域全体へ影響、小：コミュニティへ影響）		大	小	大	小	小	小	大	小	大	小	大	大	大	
PIの実施（実施●）		●	●					●	●		●	●			
利用者の属性		●													
		●													
想定される整備効果	(1)意識変化	①機能評価	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		②施設・空間の印象評価	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		③親しみ・愛着	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		④誇り	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	(2)利用者行動に与える効果	①利用形態・頻度等の変化	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		②商業活動の活性化	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		③地域活動（イベント・行事）活性化	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		④環境保全・学習活動	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		⑤施設を核とした避難体制の構築	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		⑥近隣住民同士の会話の場	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	(3)施設周辺の空間に与える効果	⑦利用ルールの作成	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		⑧樹木の手入れ・花壇等の設置	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		⑨清掃等の維持管理活動	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		①商業活動の変化	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		②建物ファサード変化	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
③軒先空間の変化		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
調査候補地（案）		●													
		●													

【凡例】
 ●…特に注目すべき効果
 ■…気象条件、周辺地域特性等から調査に難がある。
 ▲…調査がやや困難と予想される。

4. 3 ケーススタディの実施結果

本節では、前節で選定した 13 事例について実施したケーススタディの結果を、

- ・ 事業概要
- ・ 計画・設計の意図および期待される効果
- ・ 調査方法と調査結果

の項目で整理した。

以下、13 事例についての結果の概要を示す。

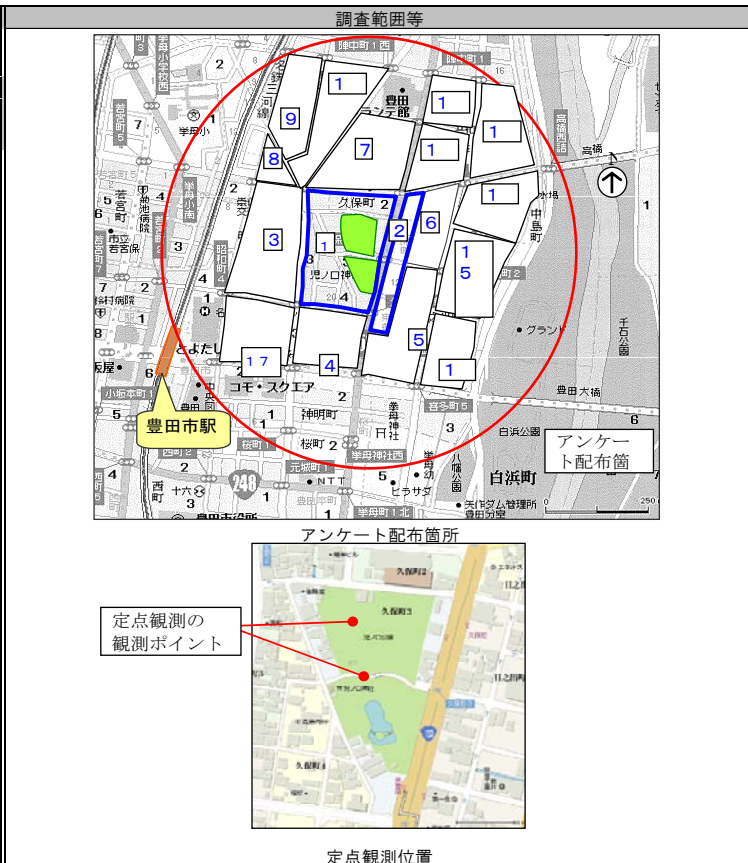
I. 山形県金山町まちなみ整備

事例名称	事業分野・施設所在都道府県	事業主体	事業特性	調査範囲等
I 金山町まちなみ整備	都市・地域整備山形	金山町	改修整備、複合的整備、P Iの実施あり、大規模（地域全体へ影響）	<p>整備された裏道、および公園・広場 アンケート郵送範囲（これまでのまちづくり整備箇所）</p>
調査結果概要				
現地での調査	対象	手法	意識変化	捉えられた効果
利用者へのアンケート調査	街並み整備地区内の全691世帯（十日町・七日町・内町・羽場）の全世帯・回収数：249通（回収率36%）	全戸郵送		
利用団体へのヒアリング調査	①森林組合 ②蔵の会 ③街並み案内人 ④餅を愛する会 ⑤商工会 ⑥金山大工	ヒアリング	○地域資源、地域を代表する景観に対する親しみ、愛着 ○金山型住宅に対する誇り ○増加する来街者に対するもてなしの気持ち ○裏道や水路がきれいになった（かつての清らかな水路が戻った）	○整備された裏道や公園等を、好んで使うようになった ○整備箇所で、来街者をもてなすお茶会やコンサート、街並み案内、フィールドワークを実施するようになった
定点観測調査	整備地区内における平日・土日の利用者	街並み整備地区内での定点観測	—	（ヒアリング結果と併せて） ○通勤、通学等での利用 ○散歩や遊び・休息等での利用 ○スケッチ、写真撮影の対象 ○団体ツアー客の見学対象 ○裏道や水路の清掃活動 ○花木の手入れ
行政	行政担当者へのヒアリング	金山町	ヒアリング	○金山型住宅への建替え ○車庫や工作場などの修景
景観整備による効果		具体内容		
意識変化	整備した空間の機能向上に対する認知	・以前は多くのゴミが流れていた水路であったが、整備後は皆ゴミを捨てなくなった ・堰へ鯉を放流してから水がきれいになり、ホタルが見られるようになった		
	造形・施設・空間の印象評価	・（今現在の）金山の街並み（景観）をとても良いと思う ・街並みを取りまく、周囲の豊かな自然の風景が好きだ ・白壁と切妻屋根の家並みの風景が好きだ ・石積み水路の大堰/めがね堰と、ピンコロ石で舗装されたその脇の小路の風景が好きだ		
	親しみ・愛着	・（今現在の）金山の街並み（景観）に親しみ・愛着を感じる ・金山に住まい始めた当時と比べて、今現在の金山の街並み（景観）の方が親しみ・愛着が強くなった		
	誇り	・（今現在の）金山の街並み（景観）を誇りに思う ・金山に住まい始めた当時と比べて、今現在の金山の街並み（景観）の方が誇りに思う気持ちが強くなった ・“金山大工”の自己の働きに対する誇り、責任感の高まり（“住宅建築コンクール”の開催や、当時のメディア掲載増加を通じて）		
	その他	・来訪者（視察者・観光客）の増加をきっかけとした、景観・環境等に対する地元住民の意識の高まり ・他地域との交流（羽州街道交流会）を通じた、金山らしさについての認知		
利用者行動に与える効果	利用形態・頻度等の変化	・散歩や寄り道のときに裏道を使うようになった ・子どもたちの遊び場としての利用 ・水生動物との触れ合い活動の発生 ・地元住民創作の絵や生け花等の展示		
	商業活動の活性化	・蔵史館前での“あおぞら市”の開催 ・公園での“自然祭（じねんまつり）”の開催		
	地域活動の活性化	・十日町地区クリーン作戦		
	環境保全、学習活動	・住民・行政の有志による海外視察研修 ・地元小学校における景観教育の実施		
	施設を核とした避難体制の構築	—		
	近隣住民同士の会話の場	・裏道は、近隣住民同士が日常的に花木の手入れや清掃をしながらの会話する場である。同時に、来訪者と地元住民との会話の場でもある ・屋根付き橋“きごころ橋”が、地元住民同士の会話の場となっている		
	利用ルールの形成	—		
	樹木の手入れ・花壇等の設置	・商工会による“花いっぱい運動”の実施 ・住民個人による裏道の緑化		
	清掃等の維持管理活動	・既存の地元団体による、当番制での美化活動の頻繁な実施 ・個人による日常的維持管理活動の実施		
	その他	・来訪者が街並みをスケッチ・写真撮影するようになった ・来訪者をもてなす場としての利用 ・新たな地域活動団体の発足（餅を愛する友の会、蔵の会、街並み案内人の会、Wagestars） ・地域活動団体の活動内容の進展（森林組合による、ストリートファニチャー等の設計デザインの推進、等） ・他地域・他団体との交流・連携（海外視察研修を通じた他の自治体、あるいは類似テーマをもつ地元団体との交流の促進、等）		
施設周辺空間に与える効果	商業活動の変化	—		
	建物ファサード変化	・裏道に面する箇所の修景（朽ちた納屋への板壁の設え、住宅の色彩変更、等） ・自宅（店舗）を建築・改築したとき、周囲の街並み（景観）に配慮して外観を整備した		
	軒先空間の変化	・水路に面した箇所への植栽の施し ・雑多な生活用品の整理		
	周辺景観の改善	・後年における周辺整備（事業地区内）における類似手法の波及（大堰→めがね堰）		
	周辺施設の連帯性の向上	・住まい手が居なくなった家屋の底を開放して裏道同士をつなぎ、誰でも自由に通り抜けられるようにした		
	視点場の形成	—		
	その他	・“金山型住宅”への建替え		
その他	地場産業の活性化	・地場材の活用 ・地場産業をとりまく技術・人材の活用、育成 ・地場産業に関わるPR活動		
	外部評価の高まり	・来訪者の増加（視察者の増加、観光客の微増、観光ツアー客の来訪） ・外部機関からの表彰 ・マスコミ・メディア掲載の増加 ・居住者の増加、Iターン者の発生		



II. 児ノ口公園

事例名称	事業分野・施設	所在都道府県	事業主体	事業特性	
II 児ノ口公園	公園	愛知	豊田市	1995竣工、改修整備、P Iの実施あり	
調査結果概要					
現地での調査	対象	手法	捉えられた効果		
			意識変化	活動変化	
利用者	利用者へのアンケート調査 地域住民（公園周辺500m区域） 回収数：a. 151通	a. 全戸ポスティング b. 直接聞き取り	○住環境が良くなった ○公園の印象が良くなった ○公園に対して愛着を持つようになった ○環境への関心が高まった	○公園を利用する回数が増えた ○公園で過ごす時間が長くなった ○地域活動に参加するようになった ○清掃等の維持管理活動を行うようになった	
	公園利用者、対象地域の住居	直接聞き取り	○地域の印象が良くなった ○公園の印象が良くなった ○公園に対して愛着を持つようになった ○環境への関心が高まった	○公園を利用する回数が増えた ○公園で過ごす時間が長くなった	
	利用団体へのアンケート調査	当時の関係者にヒアリング/児ノ口公園愛護会、なんでもギバー隊	○景観整備に対する意識の変化		
	定点観測調査	平日・土日の公園利用者	公園内での定点観測	○公園利用者の活動状況を確認	○公園内の利用状況を確認
行政	行政担当者へのヒアリング	豊田市	移動先へ伺ったのヒアリング	○景観整備に対する意識の変化 ○公園利用者が増えた ○学習などで利用されるようになった	○周辺人口が増えた ○公園でのイベントや出店が増えた
景観整備による効果		具体内容			
意識変化	整備した空間の機能向上に対する認知	・周辺住居の風通しが良くなり、公園内も涼しくなった			
	造形・施設・空間の印象評価	・公園全体の印象は良く、整備前後を比較しても良くなったという評価が多い（その一方で、整備前と比較して緑が鬱蒼としていて公園内に立ち入りにくいという面も生じている） ・施工会社における意識変化（環境、近自然工法の重要性を認識）			
	親しみ・愛着	・整備前と比較して愛着を持つようになった			
	誇り	・整備前と比較して誇りを持つようになった			
	その他	・施工に携わった社員の、環境に関する意識の高まり（近自然工法の重要性を認識） → 自費でビデオテープや自然を学ぶ助けとなる参考書（漫画）を出版 → 他社との情報共有（中部森林開発研究会、バイオフィット研究会等への参加）			
利用者行動に与える効果	利用形態・頻度等の変化	・散策の際の公園利用が増え、周辺地域の子どもが釣り（ザリガニ、魚等）や水生生物を題材とした遊びや缶蹴り等遊び場として利用している（一方で、遊具の設置を望む声の一部が聞かれる）			
	商業活動の活性化	-			
	地域活動の活性化	・整備を契機として地域の活動団体が生まれ、整備前と比較して地域が運営する祭り・行事が数多く開催されるようになった。			
	環境保全、学習活動	・ボーイスカウトの学びの場として活用 ・環境学習の題材として活用			
	施設を核とした避難体制の構築	-			
	近隣住民同士の会話の場	-			
	利用ルールの形成	・児ノ口愛護会が「ゴミは各自持ち帰り」、「①自己責任、②危機管理、③自然共生」			
	樹木の手入れ・花壇等の設置	・児ノ口愛護会が日常的な維持管理、豊田市が照明や橋梁、東屋等個別施設の改修等を行なうという官民の役割分担が明確である			
	清掃等の維持管理活動	・周辺住民、活動団体による清掃活動等の維持管理が行なわれている			
	その他	・整備をきっかけとして、地域の活動団体「児ノ口公園愛護会」が発足 ・活動に参加する団体（なんでもギバー隊、学生プロジェクト等）の増加			
施設周辺の空間に与える効果	商業活動の変化	-			
	建物ファサード変化	・自宅や店舗の改装			
	軒先空間の変化	・自宅等周辺への花・植物の設置等			
	周辺景観の改善	-			
	周辺施設の連帯性の向上	-			
その他	視座場の形成	-			
	外部評価の高まり	・視察者の増加 ・外部表彰受賞 ・周辺地価の上昇 ・マンション建設時のPR材料			



Ⅲ. 太田川基町護岸

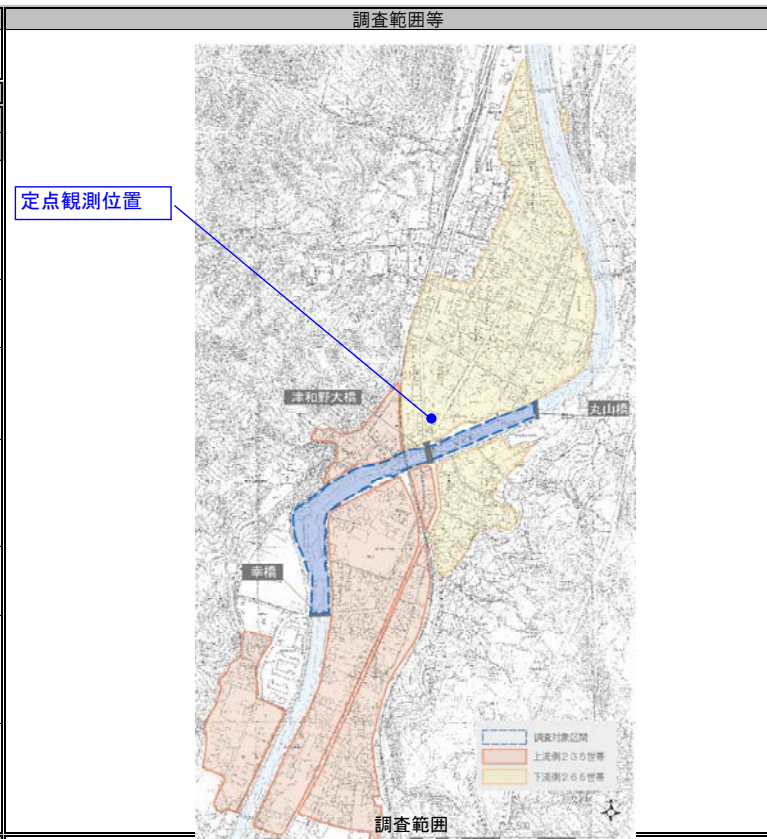
事例名称	事業分野・施設	所在都道府県	事業主体	事業特性	調査範囲等
Ⅲ 太田川基町護岸・元安川親水護岸	河川	広島県	国土交通省中国地方整備局太田川河川事務所	1983年竣工、改修整備、大規模（地域全体へ影響）、地域住民の利用中心	<p>調査範囲等</p> <p>基町環境護岸</p> <p>中央公園</p> <p>白鳥界隈</p> <p>寺町周辺</p> <p>平和公園界隈</p> <p>京橋川界隈</p>
調査結果概要					
現地での調査		対象	手法	捉えられた効果	
利用者	利用者へのアンケート調査	周辺在住、通勤・通学者、中央公民館利用者等122名	配布アンケート	〇休憩しやすくなった 〇散歩しやすくなった 〇周辺の景観（街や山）と調和している 〇石積み護岸や雁木の雰囲気 〇親しみ、愛着 〇基町環境護岸に対する誇り	〇通勤、通学等の利用 〇散歩、ジョギング、ウォーキング、犬の散歩等の利用 〇座る、休憩する、景色を眺める、写真撮影、ピクニック等
	利用団体へのヒアリング調査	①NPO法人雁木組 ②ポップラヘアレンツクラブ ③カフェテラス倶楽部 ④青空美術館	訪問ヒアリング	〇地域資源、環境に対する親しみ、愛着 〇基町環境護岸に対する誇り	〇雁木を利用した船の発着利用（雁木タクシー） 〇PPCによる清掃活動とオープンカフェの実施 〇映画上映会、コンサートの実施 〇青空美術館実行委員会によるTシャツアートイベントの実施 〇環境保全・学習活動の実施
	定点観測調査	平日・土日	新港地区側第3橋梁付近		〇通勤、通学等の利用 〇散歩、ジョギング、ウォーキング、犬の散歩等 〇座る、休憩する、景色を眺める、写真撮影、ピクニック等 〇近所の子供の遊び場の利用 〇近隣コミュニティの形成
施設周辺	現地調査（調査対象建築物・施設の抽出） 対象建築物等所有者等へのヒアリング調査	①国土交通省中国地方整備局太田川河川事務所 ②広島市活性化局観光交流部交流課 ③広島市都市整備局都市計画課都市デザイン係	設計者、計画者へのヒアリング		〇太田川沿川の他の箇所の護岸整備へのデザインの継承 〇背後の中央公園との連携
行政	行政担当者へのヒアリング		訪問ヒアリング	〇今後の水辺のあり方を考えるためのシンポジウムや展示の企画展の開催（2004（平成16）年）	〇市民団体PPCとの管理協定の締結（2006（平成18）年）
項目		具体例			
意識変化	機能評価	・散歩によいとの評価、休憩に良いという評価 ・様々なイベントに利用されているとの評価			
	造形・空間的印象評価	・街と川に一体感がある、山と川の景色が調和しているとの評価→周辺景観との調和や一体感を評価 ・川に触れ合える雁木がある、石積みの護岸に歴史的な雰囲気を感じるとの評価→雁木や護岸の機能や雰囲気を評価 ・散歩によい、休憩によい、イベント等に利用されているとの評価→利用のしやすさ（機能性）を評価			
	親しみ・愛着	・親しみ、愛着を感じるとの評価 ・広島の水辺の中での好きな場所として平和公園界隈に次ぐ2番目の評価			
	誇り	・知人が広島に来たら紹介したいと感じるとの評価 ・広島顔となる場所と感じるとの評価 ・ポップラやニセアカシアがあるとの評価→シンボリックな存在への評価			
	その他	・「基町ポップラ通り」の愛称の命名 ・設計者を呼んでのシンポジウムを開催			
利用者行動に与える効果	利用形態・頻度等の変化	・早朝・夕方は、ジョギング・ウォーキング、通勤・通学路などの利用が多岐にわたった ・日中の主な利用は、中心市街地の商業施設等への通り道として、徒歩、自転車の利用が見られた ・休日の日中は、特に、友人同士や親子連れ、恋人同士などレジャーシートを敷いてピクニック等の滞在する利用が多く見られた			
	商業活動の活性化 地域活動の活性化	・愛称「基町ポップラ通り」の命名 ・PPC（ポップラヘアレンツクラブ）の発足 ・太田川河川事務所とPPCの管理協定の締結 ・維持管理等への参加団体の増加、他団体との連携			
	環境保全、学習活動	・映画上映会、オープンカフェ、コンサート、Tシャツアートのイベント、清掃活動等の実施 ・PPCと管理者との管理協定の締結により、他の市民団体の利用がしやすくなった			
	施設を核とした避難体制の構築	-			
	近隣住民同士の会話の場	・犬の散歩やウォーキングなど毎日利用する人の交歓の場、コミュニティの形成			
	利用ルールの形成	・太田川河川事務所とPPCの管理協定の締結			
	樹木の手入れ・花壇等の設置	・月に1回の芝生広場の草刈り、清掃活動の実施 ・ベビーポップラの育成			
	清掃等の維持管理活動	清掃活動等の実施			
	商業活動の変化	・河川沿いの移動のアンダーパスの設置 ・背後の中央公園との間にある道路の移設計画			
	建物ファサード変化 軒先空間の変化 周辺景観の改善	・沿川の河岸親水テラス（1号、2号、3号）の整備、元安橋橋詰親水テラス、元安川河岸テラスの整備 ・太田川下流部高潮防波堤の整備 ・「水の都ひろしま整備構想」（平成2年）に基づく周辺空間を含めた整備			
周辺施設の連帯性の向上 視点場の形成	・河川沿いの移動のアンダーパスの設置 ・背後の中央公園との間にある道路の移設計画				
	-				
その他	外部評価	・土木学会デザイン賞特別賞受賞 ・基町護岸設計者等関係者をパネラーにした「太田川水辺のデザイン展」、「水辺のデザイントーク」、「水辺デザインウォーク」の開催			
	メディア露出	・映画「夕風の街、桜の国」の撮影 ・CM撮影、結婚式の写真撮影等			

アンケート配布範囲：
①基町環境護岸周辺に通勤、通学等で利用する人への配布
②中央公民館利用者への配布



IV. 津和野川水辺空間整備

事例名称		事業分野・施設	所在都道府県	事業主体	事業特性		
IV	津和野川水辺空間整備	河川	島根県	津和野土木事務所			
調査結果概要							
現地での調査		対象	手法	捉えられた効果			
利用者	利用者へのアンケート調査	調査対象地から概ね500m程度までの津和野川沿川500世帯	ポスティング	①歴史的な雰囲気、津和野らしさを感じる ②まちづくりに対する関心が高まる	①ウォーキングを新にはじめた ②川沿いの利用機会が増えた ③清掃活動に参加する		
	観光客		現地での聞き取り調査	①津和野川の観光利用	①鷺舞い像での記念撮影 ②川沿いの周遊		
	利用団体へのヒアリング調査	津和野町観光協会・津和野町商工会	訪問ヒアリング		①観光拠点の周遊性の創出 ②魅力的な観光ルートの創出 ③イベントの復活 ④記念撮影スポットの出現		
	定点観測調査	平日・休日	津和野大橋橋詰での定点観測及び幸橋～丸山橋間の巡回調査		①レンタサイクルによる周遊観光 ②団体観光客への効率的なガイド ③休憩、記念撮影での利用		
施設周辺	現地調査（調査対象建築物・施設の抽出）	津和野町建設課	現地を見ながらのヒアリング				
	対象建築物等所有者等へのヒアリング調査	山陰合同銀行津和野支店	訪問ヒアリング			○銀行の社員寮を歴史的な雰囲気に即した意匠で建設	
行政	行政担当者へのヒアリング	津和野土木事務所、当時の担当官、津和野町建設課、教育委員会	訪問ヒアリング	①津和野川の観光資源としての認識 ②行政官の調整能力の向上、自信・達成感	①川沿いの観光客の増加 ②橋詰広場の観光客の利用 ③川沿いの市民利用の増加 ④通学路を川沿いに変更 ⑤イベント開催時の利便性の		
項目			具体例				
意識変化	機能評価	安全なルートであるとの認識が多く見られた。					
	造形・空間の印象評価	歴史を感じる、津和野の街の雰囲気に合っているといった回答が見られた。まちづくりへの関心の高まりが見られた。観光客への聞き取り調査では、「津和野らしい風景」について、殿町通りの次に津和野川が挙げられている。					
	親しみ・愛着	川への愛着や親しみを感じているとの回答が多く見られた。					
	誇り	知人が来た時に案内したい、街の顔だと思おうといった回答が見られた。					
	その他	「津和野町まちづくり検討委員会」発足の布石となる。高質なデザインが街中の街路整備に波及。					
利用者行動に与える効果	利用形態・頻度等の変化	散歩などでの利用が増加した。特に、ウォーキングを新に始められた方が多く見られた。保育園が河原で子供を遊ばせるようになった。川沿いを利用する観光客が増加した。					
	商業活動の活性化	土産物店による団体客へのガイド時において、橋詰広場が有効に活用されている。					
	地域活動の活性化	植栽活動や清掃活動が行われるようになった。特に、清掃活動については、参加者が多い。					
	環境保全、学習活動						
	施設を核とした避難体制の構築						
	近隣住民同士の会話の場	散歩時などに井戸端会議的な利用が見られる。					
	利用ルールの形成						
施設周辺の空間に与える効果	樹木の手入れ・花壇等の設置						
	清掃等の維持管理活動	イベント的な清掃活動の他に、日常の自発的な清掃活動も行われている。					
	商業活動の変化	土産物店による団体客へのガイド時において、橋詰広場が有効に活用されている。					
	建物ファサード変化						
	軒先空間の変化						
周辺施設の連帯性の向上	周辺景観の改善	新に建設された建物に、景観への配慮が見られた。事業を布石として、まちづくりに関心が高まり、景観検討の場への市民参加が盛んとなる。					
	周辺施設の連帯性の向上	魅力的な散歩ルートが整備されたことで、観光拠点間の連帯性が向上した。この整備を起点として、街並み整備のデザインの高質化が見られるようになった。					
	視点場の形成						
その他	外部評価	土木学会デザイン賞を受賞。					
	他事業への波及	街並み整備のデザインの高質化の布石となっている。					
	メディア露出	テレビ番組や旅行ガイドなどに取り上げられる機会が増加している。演歌に歌われる：島津悦子「津和野川」2002年発売、オリコンチャート最高位30位					



V. 岸公園

事例名称	事業分野・施設所在都道府県	事業主体	事業特性		
V 岸公園（袖師親水湖岸堤）	河川	島根県	出雲工事・松江市		
1999年竣工、新規整備、複合的整備、地域住民の以外の利用あり					
調査結果概要					
現地での調査	対象	手法	捉えられた効果		
			意識変化	活動変化	空間変化
利用者	利用者へのアンケート調査 調査対象地から概ね500m程度までの周辺湖岸寄り1000世帯・回収数：362票（回収率36%）・単純集計終了	ポスティング	①街の顔、大切な場所としての認識 ②親しみや愛着、誇りの創出 ③傍に住むことの幸せの享受	①散策やウォーキングでの利用増	①湖岸のネットワークの強化
	岸公園来訪者・実施107票	聞き取り調査	①岸公園に対する高い好感度 ② 穴道湖の魅力の再認識	①観光客の利用増 ②美術館来館時の利用	
	利用団体へのヒアリング調査 島根県立美術館、松江カーヌー協会、嫁ヶ島竹生島神社、NPOまちづくりネットワーク島根	訪問ヒアリング		①カーヌー教室の実施 ②カーヌーツアー時の立ち寄り ③イベントの開催 ④嫁ヶ島観光振興の期待 ⑤清掃活動の実施 ⑥美術館の来館者増にも影響	
定点観測調査	平日・休日	岸公園での定点観測及び周辺湖岸公園の巡回調査		①ウォーキングでの利用増 ②観光客の利用増 ③都市伝説の周知	
施設周辺	現地調査（調査対象建築物・施設の抽出） 対象建築物等所有者等へのヒアリング調査	タ日スポットの整備に関して、松江国道事務所 訪問ヒアリング			湖岸のデザインについては岸公園のものを踏襲
行政	行政担当者へのヒアリング 出雲河川事務所、松江市公園緑地課	訪問ヒアリング	①行政官の達成感	①美術館との相乗効果で利用者増	
景観整備による効果		具体内容			
意識変化	整備した空間の機能向上に対する認知	湖岸の周遊ルートの形成の寄与 高い親水性			
	造形・施設・空間の印象評価	美しい、きれい、開放的、落ち着いた雰囲気、優れた眺望etc			
	親しみ・愛着	親しみや愛着を感じているとの回答が多く見られた。他、「大切な場所」、「心の支え」といった回答も見られた。			
	誇り	知人が来た時に案内したい、街の顔だと思おうといった回答が多く見られた。			
利用者行動に与える効果	利用形態・頻度等の変化	散歩・ウォーキング目的に来訪する人が多い。 観光客が多く、観光バスの立ち寄りも見られ、観光スポットとしての位置付けが確立している。 時間帯により利用形態が大きく異なる（朝：ウォーキング等、昼間：子連れでの遊び等、夕方：夕日見物等）			
	商業活動の活性化	美術館の来館者増に貢献している。			
	地域活動の活性化	—			
	環境保全、学習活動	—			
	施設を核とした避難体制の構築	—			
	近隣住民同士の会話の場	—			
	利用ルールの形成	—			
	樹木の手入れ・花壇等の設置	—			
施設周辺の空間に与える効果	清掃等の維持管理活動	日常の自発的な清掃活動が行われている。			
	その他	穴道湖うさぎの像が取り持つ縁結びの都市伝説が生まれ、参加者が多数来訪するようになった。			
	商業活動の変化	美術館において岸公園を利用したイベントが行われるようになった。			
	建物ファサード変化	—			
	軒先空間の変化	美術館との連絡動線が追加された。			
	周辺景観の改善	夕日スポットの整備に対する提言が出される一要因となっている。			
その他	周辺施設の連帯性の向上	湖岸の周遊ルートのネットワーク化に大きく寄与している。			
	視点場の形成	穴道湖の夕日を眺める場としての「夕日スポット」が整備された。			
その他	外部評価	土木学会デザイン賞大賞を受賞。			
	他事業への波及	夕日スポットの整備への関連性が確認された。			
	メディア登用機会の増加	朝のニュース時などにおけるインタビューとして多用されている他、ドラマのロケ地としても複数回利用されている。旅行雑誌に取り上げられる機会も増えている。			



VI. 指宿海辺の散歩道

事例名称		事業分野・施設	所在地	事業主体	事業特性	調査範囲等	
VI	指宿海辺の散歩道	海岸	鹿児島	指宿市			
調査結果概要							
	現地での調査	対象	手法	捉えられた効果			
				意識変化	活動変化		空間変化
利用者	利用者へのアンケート調査	指ヶ浜地区 散歩道から500m以内 (徒歩圏内)の世帯(500世帯)	ポスティング	○拠点として認知する ○市民誰もが知っている ○印象に残る ○街と海辺の一体感を感じる ○開放感がある	○この場所をよく訪れる ○散歩・ジョギング・ウォーキング ○周りの景色を眺める		○他の海岸地区との差別化 ○お手本としての意識
	利用団体へのヒアリング調査	指ヶ浜通り会 丹波小学校	ヒアリング	○拠点として認知する ○市民誰もが知っている ○印象に残る ○街と海辺の一体感を感じる ○開放感がある	同上	○他の海岸地区との差別化 ○お手本としての意識 ○ブロック塀の撤去 ○背後施設の建て替え ○出入り口の変化	
施設周辺	現地調査(調査対象建築物・施設の抽出)		現地調査				
	対象建築物等所有者等へのヒアリング調査	砂楽 吟松 九電保養所	訪問ヒアリング			○他の海岸地区との差別化 ○お手本としての意識 ○ブロック塀の撤去 ○背後施設の建て替え ○出入り口の変化	
行政	行政担当者へのヒアリング	指宿市	訪問ヒアリング	○拠点として認知する ○市民誰もが知っている ○印象に残る ○街と海辺の一体感を感じる ○開放感がある			
項目		具体例					
意識変化	機能評価	拠点として認知している。市民誰もが知っている。街と海辺の一体感を感じる。開放感がある。他の海岸地区との差別化。お手本としての意識。					
	造形・空間の印象評価	印象に残る。					
	親しみ・愛着	生活の一部に入り込んでいる。					
	誇り	観光地指宿のイメージ形成、指宿温泉の中心地として認知されている。					
利用者行動に与える効果	利用形態・頻度等の変化	利用内容の変化(座る、休憩する、景色を眺める、ウォーキング等)、利用頻度の変化					
	商業活動の活性化	-					
	地域活動の活性化	地域活動(イベント・行事)の活性化(菜の花ウォーキングマーチのコースとして利用)					
	環境保全、学習活動	-					
	施設を核とした避難体制の構築	-					
	近隣住民同士の会話の場	コミュニティ活動の変化(近隣の人々の社交の場として利用)					
	利用ルールの形成	-					
	樹木の手入れ・花壇等の設置	-					
効果施設周辺の空間に与える	清掃等の維持管理活動	コミュニティ活動の変化(市民による清掃活動の実施)					
	商業活動の変化	砂むし会館「砂楽」を同時に整備					
	建物ファサード変化	背後施設の建て替え					
	軒先空間の変化	-					
	周辺景観の改善	-					
	周辺施設の連帯性の向上	ブロック塀の撤去、出入り口の変化					
その他	他事業への波及	新たな事業として、散歩道の延長や子宝ロードの整備が検討されている。					
	ソフト事業との連携	高齢者の健康づくりの場となっている、子供たちの総合学習の場となっている					
	メディア露出	-					



▲整備前の管理通路



▲整備後のプロムナード



▲宿泊施設前面の塀が取り払われ、プロムナードとの一体性が生まれた



▲再整備された砂むし会館「砂楽」



▲「砂楽」前の全天候型の砂むし